**とっさのときの処置**

**★頭を打った**

子どもから目を離さないで、四六時中見張っていることは不可能です。子どもの転落防止のために、ベビーベッド、ベビーカー、椅子の上、階段、ベランダなど危険なところには、一人で登れないようにあらかじめ工夫しておきましょう。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □お母さん、落ち着いて経過をみましょう。まわりの大人がパニックにならないように。□すぐワーッと泣いたら、まずは一安心です。□眠っているのか意識がないのか気をつけてください。いつもかかないイビキが目立つときは要注意です。□２～３日は子どもの様子を良く観察してください。 | □ぼんやりしたり、意識状態がおかしい。顔色が悪い。□けいれんを起こした。□頭痛がひどい。□吐き気がだんだん強くなる。□鼻血が止まらない、耳から出血している。□手足が動かない、しびれる。□「ものが見えにくい」と子どもが言うとき。 |

**★やけど**

子どもが７，８カ月を過ぎた２歳になるまでの間は、やけどをする最も危険な時期です。原因として、みそ汁、カップラーメンなどの熱い食べ物やポットのお湯、やかん、ストーブ、加湿器、炊飯器などたくさんあります。

やけどの程度は、その面積や深さによって判断しますが、それによって、その後の治り具合が異なります。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □できるだけ早く水をかけて冷やしてください。服の上からやけどした場合も、服を脱がせる前に水をかけて冷やしましょう。□やけどをすると水ぶくれができてくる場合があります。直接、水をかけると水ぶくれが破けてしまうことがありますから、洗面器に水道水を流しっぱなしにして、やけどしたところを浸して冷やしましょう。□痛みが消えるまで、最低10分くらいは冷やしてください。□水ぶくれができた場合は、冷やした後も破らないように気をつけて、病院で処置を受けてください。□民間療法や家庭療法で悪化することもあります。ミソ、バター、アロエ軟膏、チンク油など民間で使われているものはおすすめしません。 | □やけどの痛みがなく黒っぽかったり、やけどの面積がからだ全体の10％（片腕の面積に相当）以上のときは、すぐ病院へ。 |

**★鼻血**

鼻血は、心配のない場合が多く、そのほとんどが鼻の入口付近からの出血です。子どもは、遊んでいて鼻を打ったり、いじったり、ちょっとしたことでも出血し不安になるものですが、普通は家庭での処置で治ります。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □まず、小鼻の部分を指でつまんで10分くらい圧迫するか、冷たいタオルで冷やしてみましょう。□脱脂綿を鼻の穴くらいに丸めて、あるいは１ｃｍ幅の棒状のガーゼを軽く鼻に詰めます。□後ろにそらせたり、首の後ろを叩くのは意味のないことです。□椅子あるいは何かに寄りかからせて座らせ、前かがみにさせます。寝てはいけません。□止血したら、綿球（めんきゅう）やガーゼをゆっくり取り出して下さい。さもないと再出血することもあります。 | □出血がひどいとき、15分たっても止まらないとき。 |

**★歯が折れた・抜けたとき**

子ども同士がぶつかって、歯や口をケガすることも多いものです。子どもの歯は、ちょっとした衝撃で欠けたり抜け落ちてしまうこともあります。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □歯が折れたときや抜けたときは、根元にさわらないように、清潔に取り扱って下さい。□歯が抜け落ちても、元に戻せることもあります。抜けた歯をすぐに水道水で、こすらずサッと洗い、元の位置に戻します。 | □傷がひどかったり、きちんと元へ戻せないときは、乾燥させないように牛乳の中に入れて歯科医院へ。□牛乳がないときは、30分以内に歯科医院へ。 |

**★ケガ・打撲・骨折**

すべての危険を排除することは不可能です。「ダメ」と「のびのび」のバランスはむずかしいものです。小さなケガの経験から自分を守る方法を身につけさせ、家庭で処置できる傷と、病院に駆けつけるべき傷との違いを見分けられる知識を持ちましょう。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □傷口が汚れていたら、水道水できれいに洗い流しましょう。□血が出ていたら、きれいなガーゼで押さえて圧迫します。□腫れてきたら、氷嚢（ひょうのう）、冷湿布で冷やしましょう。□傷口にティッシュペーパーなどのへばりつくものを直接かぶせてはいけません。傷口の処置のさまたげになります。□アロエの葉を傷口に貼るなどの民間療法はやめましょう。 | □受傷後、顔色が悪いとき。□痛みがひどいときや腫れてきてときは、骨折していることもあるので、その部位を動かさないで病院へ。 |

**★鼻の異物**

プラスチックの玉、豆類、ボタン、ボタン電池など、子どものいたずらによるものが多いです。鼻の中に入った異物は時間が経つにつれ取れにくくなるので、注意が必要です。子どもが放置しておいて腐って、悪臭のある鼻汁で初めて気がつくこともあります。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □反対側の鼻を押さえて、強く鼻をかむと出る場合があります。□異物が外から見えていてつかめそうな場合は、奥に押し込んでしまわないように注意して、ピンセットで取り出してみてください。 | □決して無理をしないように、取れないときは耳鼻咽喉科へ。 |

**★耳の異物**

子どもはいたずらをして、ガラス玉、豆、ボタンなどを入れることがあります。小さな虫が入ることもあります。耳を痛がったり「耳が変だ」と訴えることもありますが、子どもが何も訴えずに耳だれが出て初めて気がつくこともあります。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □異物の入った耳を下にして、反対側の頭を軽く叩くと出てくることがあります。□つかみやすい物は、奥に押し込まないようにして、先がとがっていないピンセットで静かに取り出して下さい。 | □耳の奥に入ったものは、無理をしないで耳鼻咽喉科へ。 |

**★目の異物**

目は体の中で一番異物の入りやすい場所です。ゴミや砂、虫、ときには油や薬品が入ることもあります。どんな場合でも、絶対に目をこすってはいけません。

☆すぐすること・注意すること　　　　　　　　　　　　☆こんなときは、お医者さんへ

|  |  |
| --- | --- |
| □涙で流れ出ないときは、水の中でまばたきをして洗います。小さな子は、お母さんが片手に水をすくって子どもの目を洗って下さい。□小さなゴミは水で濡らしたガーゼで取ります。乾いた物でこすると、角膜を傷つけます。ピンセットは絶対に使わないように。 | □熱湯、薬品が入った場合は、すぐ流水で洗い流し、急いで眼科へ。 |